

令和7年度 信学会長野北幼稚園園 「園の自己評価」

1 園の教育目標

「 あそびにトライ まなびにトライ 」

2 令和7年度の重点目標

- (1) 好奇心いっぱいに取り組む子
- (2) よく遊び生きる力を育む子
- (3) 思いやりのあるやさしい子

3 自己評価

A…十分達成されていると思う

B…達成されていると思う

C…取り組んでいるが、成果が十分でないと思う

D…取り組みが不十分であると思う

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	B
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	B
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	A
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	B
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	A
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	A
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTAや学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	B
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

4. 本年度の取り組み及び来年度への方向

子どもたちがやりたいことや遊びを見つけ そのことに対して職員が一丸となって 後押しをしていく日常の保育の姿をめざして子どもたちと過ごしてきました。学年が進むにつれて 自分の意見を持ち互いに相談し合いながら 活動を決め作り上げていき 達成感を味わうことが自己肯定感につながってきていると考えています。自然に一人あそびから 友だちへと気持ちが向きコミュニケーションの深まりが見られるようになってきた。年長児の姿や活動を見たり 一緒に活動し作り上げることにより内容も深まり 互いによりよい関係性が自然と育まれている。来年度はこれらの姿を生かせるように改めて保育室の環境や子どもたちにとって 過ごしやすくあそびが充実する保育室を提供できるように考え進めている。来年度も子どもたちの「やりたい」を実現し より深められる環境や 保育を提供していきたいと思う。